



終わらない

never ending memory

メモリア

上

R-18
Adult Only



終わらない

never ending memory

メモリア

上

R-18
Adult Only

愛することを
知ってしまったら

きつとキミは
泣いてしまうだろう



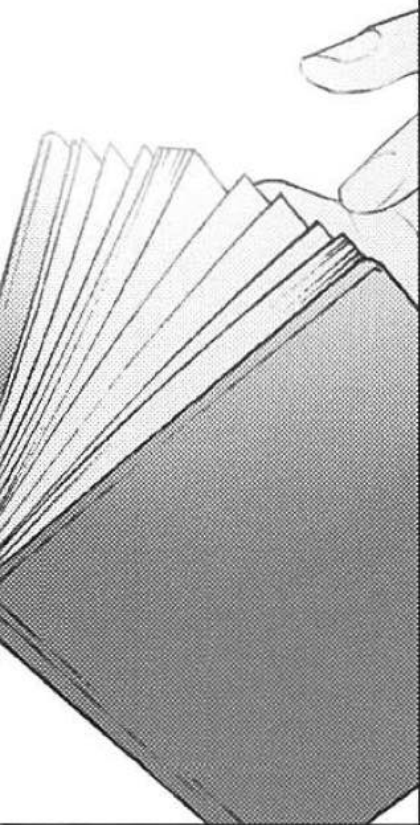
そんなもろい
孤独の中で

見つけた答えが
正解かどうかなんて

もうわからない
けれど



パ
ン
?



テーマ「純愛」

……純愛、か

—でね、〇〇がこの前
付き合ってた先輩と
別れたんだけど

はあ？まだ二週間も
経ってないじゃん

なんでまた
そんな早かったの

それがさー街で
偶然出会っちゃった
らしいのよ、

『運命の番』
ってやつに

ヒトの人生は
一度きりだ

それを歩む時間も
また自分自身のもの
でしかない

縛るも
切り離すも

内なる身勝手の
気まぐれだ

ボクは誰かに
人生を捧げられる
ほど

ねえ、あの人
超かっこよくない？

背高いね
モデルかな…？

人間が出来て
ない

見つけた

黒子っち

どうやって
オレから
離れられると
思ってるの

そんな首してんじゃ
見つけるも何もない
っすけど

— そんな状態で

……まあ、そもそも

音がきこえる

深淵の闇におとされる音が

終わらない
never ending memory
メモリア
上



黄瀬君そのアザ
どうしたんですか

えっ

なんだかすごく
痛そうなんですが…

あー…これ？

休み時間に
ふざけてたら
思いつきり
ぶつけちゃって！

そんな痛くないから
安心してほしいっす

気にしないで

黄瀬君は
わかりやすい

……

これは

明らかな
動揺だと

きーちゃんの
様子がおかしい？

はい……
何か隠している
ような気がして

昨日は首元に
見たこともない
アザがあったんです

本人は遊び中の
事故だって言い
張ってましたが……

うーん……

……人のお家の事情
だからあんまり
大々的には言えない
んだけど

きーちゃんのお家、
結構複雑みたいで……

詳しくはわからない
けど実のお母さんは
すでに亡くなられてる
らしくて

再婚して後妻に入った
女のひとがきーちゃんに
……気があるって……

……えっ？

あたしもクラスの
子に聞いただけだから
あくまで噂話でしか
ないんだけどね

休日に街中で
偶然きーちゃんを
見かけたんだって

隣に二十代後半
くらいの女の
ひとを連れて
歩いてたって

ほら、きーちゃん
目立つし、そうそう
見間違えることも
ないから

ずいぶん年上の彼女
さんだなあくらいの
感覚でいたらしいん
だけ……

「ごめん」

「あんまくつつくのは
やめてくんないっすか」

「母さん」

……そのとき見た
きーちゃんの顔色が
だいぶ悪かったって
言ってた

こういう言い方は
失礼かもしれない
けど好意的ではなさ
そうだったって…

テツくんの気に
してることとか何か
関係があるのかな

ちょっと心配
だよね……

それから
ボクは

黄瀬君を
注視し続けた

もちろん教育係として
面倒をみる目的も
ありますが……

…単純に





……黄瀬君



……それも教育係の仕事のうちっスか？

オレもだいたい無茶しなくなってきたと思ってたんすけど



さっきから見るとすごく具合悪そうですよ

もしだったら一度保健室に行った方がいいんじゃない……



だったら……！



心配してくれんの

オレのために



心配しない理由
なんてありません

ボクたちチーム
メイトじゃないですか



——単純に

…そんなの

当たり前じゃ
ないですか



もっと

自分を大切に
してください
……！

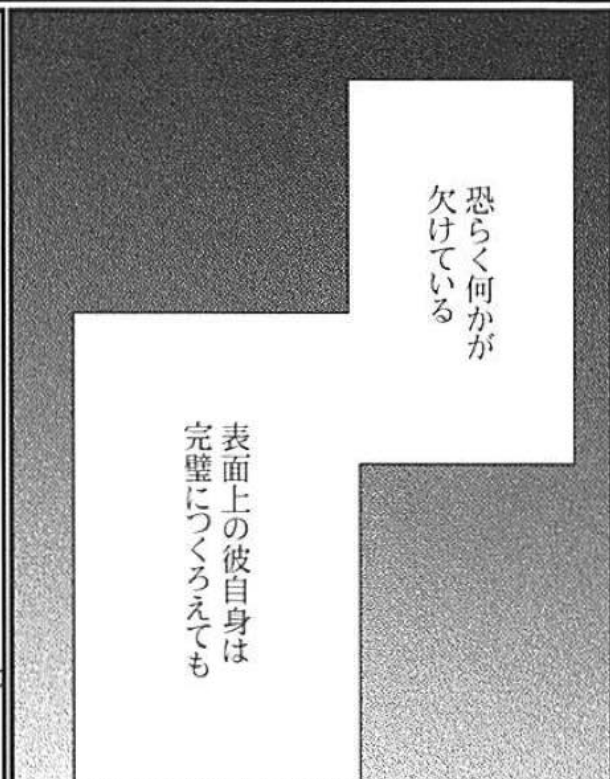
黄瀬君には



中身までは…

アッ

？



恐らく何か
欠けている

表面上の彼自身は
完璧につくろえても



は...



…感じて
しまうのは



ほら

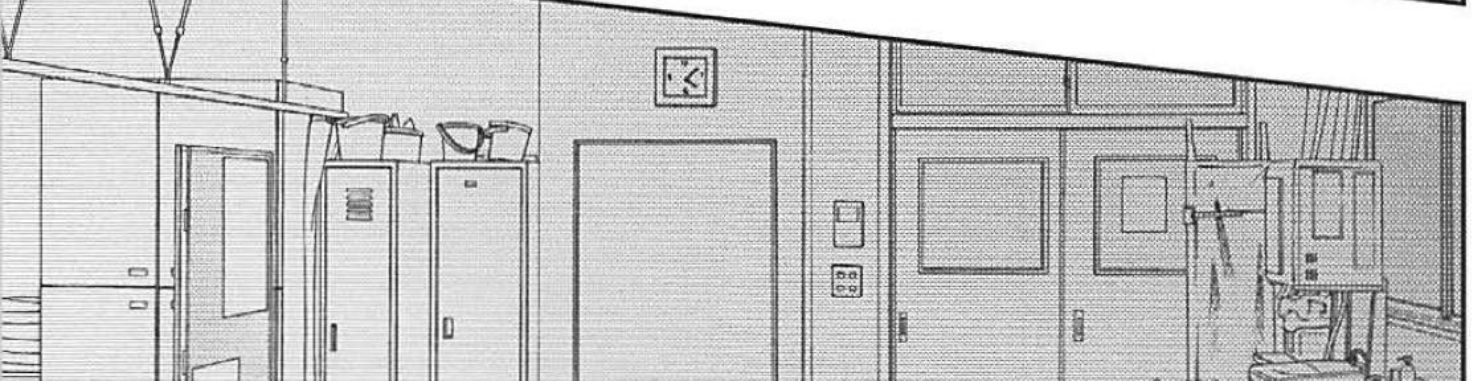
一緒に行って
くれるんでしょ

保健室



危うい
狂気だ

怪しさを
はらんだ



先生は今電話
対応中ですぐには
戻れないそうです

あ：そういうえば
ドリンク持ってくるの
忘れちゃいましたね

良かったらボク
取ってきますよ

する：

了解ッス

…いや、

大丈夫っスよ

でもあるに越した
ことはないですし

念のため



…そう

ですけど

何を

ヤ



ほんとに？

突然

!



ボクがβだと
何かおかしいですか

パース性のことを
言うのはさすがに
怒りますよ

ああ、違うんすよ

そういう意味で
言ったんじゃないくて



は…

黄瀬君…？

黒子っち
ってさあ

β？



βのはずの
黒子つちに

なんでこんなに
庇護欲と加虐心が
湧くのか

オレ自身も
よくわかんなくて

確認しただけ



……
!?



苦しう……う

ふいあ、

怖い



やめっ……

くちゅ

ちゅ

……

ふはっ



こんな黄瀬君は

知らない



……黒子っちは
優しすぎるんすよ

だから
こうやって

オレみたいなのに
つけこまれる



……っ



オレの秘密

教えて
あげようか

オレ黒子っちの
こと好きなんすよ



『運命』じゃ
ないけど

それが中学二年の
初夏の頃

彼との関係が
変わることになる
きつかけだった



本当に
それって

ボクのこと『好き』
なんですか……？



どんなに自問自答を
繰り返しても

音にならずに
虚しく散るだけだ

だからこうして



恋と運命を
はき違えて

目の前の孤独を
手離せないでいる

終わらない
never ending memory
メモリア
上

Kuroko's Basketball Fanbook #16
Kise × Kuroko
2017.12.30

徒言/Adagoto